2023ミス日本「水の天使」竹田聖彩（たけだせいあ）さんが水資源機構にご来訪

第55回水日本コンテストで2023ミス日本「水の天使」に選ばれた竹田聖彩さん（名古屋大学医学部医学科2年生）が令和5年2月20日に水資源機構へ就任挨拶にいらっしゃいました。

竹田さんは帰国子女で2011年にタイで大洪水を経験されているほか、幼い頃からダムを訪問され、また、大学でも公衆衛生を学ばれるなど、水についての見識をお持ちで、「水の天使」就任に当たり熱く抱負を語っていただきました。今後、「水の日」「水の週間」など水に関する行事等を通じ、水の広報官として水への意識を高める活動を行われます。

【広報誌「水とともに」2023年度読者のモニター募集】

水資源機構では広報誌「水とともに」の誌面づくりに貴重なご意見をいただくため、2023年度読者モニターを募集しております。

募集条件 年４回（季刊発行）、広報誌をご覧いただき、そのアンケートにご協力いただける方。

モニター期間 2023年夏号～2024年春号

応募人数 40名程度（応募者多数の場合は抽選）

応募条件

①お名前（ふりがな）　②性別　③郵便番号・ご住所
④年齢　⑤ご職業　⑥お電話番号
⑦アンケート返信用封筒の要否
※FAX、Eメールでアンケートを送付される方はその旨ご記載ください。

上記を記載いただき、郵送、FAX、Eメールいずれかの方法でご応募ください。

応募先
●郵送……〒330-6008　埼玉県さいたま市中央区新都心11-2
独立行政法人水資源機構 総務部広報課あて
●FAX……048-600-6510
●Eメール……water_koho@water.go.jp

応募〆切 **2023年4月18日（火）**

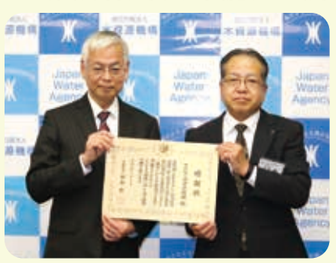
当選結果 **夏号の発送をもって替えさせていただきます。（6月発刊予定）**

その他
●ご提供いただいた個人情報については、本件に関することにのみ使用するものであり、厳重に取り扱うことはもとより、本人の許可なく開示・提供いたしません。
●読者モニターを対象とする水資源機構の施設見学会などを企画する予定です。
※2022年は栃木県鹿沼市にある南摩ダムにて開催（2022年・冬号を参照）。

水機構ニュース

「水機構ニュース」では、水資源機構からの最新ニュースを中心に、水にまつわるさまざまな情報をお届けします。

福島県新地（しんち）町での管水路復旧の支援に対し東北農政局長より感謝状



令和4年3月16日に発生した福島県沖の地震により、福島県そうま土地改良区が管理する管水路施設が破損し水田400haが作付できない状態となりました。このため、災害復旧事業を実施する福島県新地町及び東北農政局より、備蓄資機材として機構が所有している継手補強材の使用依頼及び支援要請がなされ、機構より内面バンドを貸与したことにより、4月下旬には通水可能となり例年通り田植えを行うことができました。

この復旧支援に対し、令和4年12月13日、東北農政局長より水資源機構に感謝状が授与されました。機構では、災害発生時の被害拡大防止に向けて、日頃から地域との連携を深め、引き続き積極的な地域支援に取り組んでまいります。

利根川水系

かすみがうら市と教育支援に関する連携協定を締結

令和5年1月26日、霞ヶ浦用水管理所を含むかすみがうら市内の企業13者と、かすみがうら市との間で教育支援に関する連携協定を提携しました。これは、かすみがうら市の「キャリア教育推進プロジェクト」として、児童生徒が市内の企業を見学や職場体験、出前講座等を通じて「五感で体感」することで、学校教育活動を充実させキャリア教育の推進とともに、企業価値の向上を図ろうとするものです。霞ヶ浦用水管理所としてこのプロジェクトを通じて、地域の学校教育の振興等に貢献するとともに、事業のPRを行ってまいります。

淀川水系

釣りの大イベントで河川環境改善の取り組みをPR

令和5年2月3・4・5日、大阪南港のインテックス大阪を会場に例年4万人以上が訪れる国内最大規模の釣りの祭典「フィッシングショーOSAKA2023」が開催され、釣り具メーカー等145の出展団体の一つとして猪名（いな）川水系漁業協同組合連合会と一庫ダム管理所が共同出展。3年ぶりのリアル開催となり、はじめて携わる職員は、来場者の多さに圧倒されながらも、訪れた方々に展示パネルや水槽に入れた魚・モクズガニなどを見てもらいながら、これまで漁業関係者とダムが連携して地域と一緒に進めてきた河川環境改善の取り組みなどを丁寧に紹介。猪名川漁協の鈴木啓祐組合長は、「私たちがダムと一緒に地道にやってきた取り組みを、発信力のあるこういったイベントを通して積極的に広め託すことも後世への責任。“継続は力なり”、何より続けていくことが大切ですね。」とのことでした。